(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 12月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200189		
法人名	株式会社エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム舟入みどりの家		
所在地	〒730-0842 広島市中区舟入中町9-16 (電話) (082) 295-4910		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200189-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年11月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自由で家庭的で笑顔の絶えないホーム作りを目指しています。入居者様の気持ちを汲みながら買い物、散歩、生活レクリエーション等の役割を持っていただき、居心地のよいホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

新管理者の下、この1年間の特徴的な取組みとして、第一に、今年度の運営方針の4本柱の一つである「理念の共有と実践」の深化がある。即ち、事業所は「業務優先とならないように常日頃から注意しながら」利用者のペースに合わせたケアの提供を行っている。基本方針である「ゆっくり いっしょに たのしく」をモットーに、「自分の役割を持ちたい」という利用者の意向と「本人のできることをしてほしい」という家族の要望に沿った生活支援を行い、利用者が自分の仕事に取り掛かる「そわそわ感」を大切に、達成感の実現に寄り添っている。第二に、「事業所と地域とのつきあい」の深化がある。即ち、今年度の運営方針の一つでもある「事業所の認知度アップ」も踏まえ、ブログ等の広報活動の促進や相互交流の前提として、利用者の散歩や買い物といった個別外出支援や地域行事参加等を通じて、更なる地域との絆作りの拡充に努めている。

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念「ゆっくり いっしょに たのしく」を各フロアに掲げ常に念頭に置いてサービス提供を行っている。また、ホームで年間運営方針を作成し、地域の方の協力を得ながら利用者本位の暮らしを実践している。年2回は職員が個々に挙げた個人目標と共に振り返りを管理者と共にやる。	理念（基本方針）は開設時に法人により作成され、所内に掲示して、ケアを実践する上での立ち返るべき原点として位置付けている。その理念の達成の為に年間運営方針を職員会議で策定し、期末に振り返り、次期に繋げている。又、職員個人の業務目標管理も導入され、年間目標を設定し、半期毎の個人面談により、ケアの向上に繋げるべく、日々の実践に取り組んでいる。	期末の振り返りを経て、年間運営方針を策定してケアの実践に取り組んでいるが、その運営方針を評価する仕組みが不明確である。開設から11年、新管理者を迎え、例えば、会議での振り返りを議事録に落とす案等、評価の検証過程を「可視化」することで、職員間の認識を共有化し、理念・運営方針の深化・定着に努めることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	町内会に加入し町内会の会合に参加し町内の情報収集に努めている。町内会の敬老会、運動会、神社のお祭り、商店街のお祭りに呼んで頂き、入居者様と参加させていただいている。	日頃から近所への散歩や買い物等で地域交流を深めている。町内会に加入し、敬老会・運動会・夏の地蔵祭り等の地域行事に参加している。又、事業所主催の避難訓練に民生委員が参加したり、フルーツ演奏のボランティア受け入れ等、相互交流も為されている。更に認知症サポーター養成講座等で地域児童との世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括センターの職員の方の協力のもと神崎小学校で認知症養成講座があり小学校の方との交流がありました。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームで作成しているブログをファイルしてホーム内の様子を見てもらっている。運営推進会議では町内会や地域包括支援センターとの情報交換を行い、議事録は面会にきていただいた方の目に届くところにおいていつでも見てもらえるようにしている。民生委員、他の事業所の方からイベント、防災訓練の事等助言を頂いている。	会議は定期的開催され、家族・地域包括支援センター職員・民生委員・近隣事業所職員はほぼ毎回、時に利用者・区保険課職員が参加している。会議では事業所の現況報告や行事報告等が参加者との意見交換と共に行われ、参加者からの提案でヒヤリハット報告に関し、利用者の強みを重視した「にやりほっと」に改変した例がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険の申請手続き、待機状況など連携をおこなっている。また、生活保護の方の報告は中区生活課に逐一行っている。	運営推進会議には、毎回地域包括支援センターの職員が参加し、情報の共有化が図られている。又、地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」に事業所職員が協力する他、行政主催の防災研修に参加したり、認知症支援推進員の派遣や認知症カフェの勉強会等への参加で地域包括支援センターとの連携を深めている。	

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束はしていない。玄関の鍵についてはテンキーにて施錠している。解錠の話し合いの場をつくるが事故予防、安全面の考慮より解錠に至ってない(ご家族様より施錠希望のお声あり)</p>	<p>法人全体でマニュアルを策定し、職員は年1回の内部研修に参加して「身体拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねており、拘束例はない。3、4階各フロアはエレベーターで出入りしており、安全面からテンキー・ロック対応である。又、言葉による行動制限も控え、職員間で気づき合える様に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会を実施し、職員全員が虐待の事例よりなぜおこるのかを考え、虐待、またはそれを見過ごすことないようお互いに注意している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者様で成年後見人を利用されている方がおられ、制度やあり方について話し合っている。また全体ミーティングのホーム内研修でホーム長より勉強会を行い理解の把握に努めた。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約において十分に説明を行い、不安な点や疑問点に対しても質疑応答の時間を設け不安解消・理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会、運営推進会議、家族会などの機会等で意見交換を行っている。</p>	<p>利用者の意見、要望は日々の職員との会話を通じて把握し、家族とは面会時や年1～2回の家族会や運営推進会議等で、職員や管理者が積極的に聴くように努めており、「申し送りノート」にそれを記載し、職員間で共有している。意見が反映された例として、利用者の喫煙希望に対し、フロアで管理しながら要望に沿った経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、申し送り、面談などで意見交換を行っている。また意見があれば随時意見交換を行い、話し合いを行っている。	日々の申し送り、毎月又は臨時のミーティング、半期毎の個人面談等で職員の意見を聞く機会を設け、管理者が集約している。必要時は法人の運営会議で検討する場合もある。意見が反映された例として、運搬業の生活歴がある多動な利用者への対応として、ケア向上委員会の提案でプランター菜園の仕事を担ってもらった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に1回の運営会議で管理者の意見を吸い上げ必要ならば環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者から管理者に下ろし外部研修やホーム内研修で職員を育てる取組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	江波、舟入地区内の運営推進会議参加したりして情報交換を行っている。また研修会に参加の際も交流の場を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者に寄り添い、不安なことや困ったことなどを聴きそれに応じ本人様の住みよい環境づくりに努めている。入居前に本人様に見学に来ていただき不安なことを聞き安心をしていたくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前後の情報交換のみならず、そのあとも密にご様子の連絡を行ったり、質問や要望に応えるなどコミュニケーションとりやすい環境をつくり、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様やご家族様の意見、要望を聴きそれに応えるようケアプランを作成し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームの家庭的な雰囲気の入居者様のペースで過ごして頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた際ご様子、近況の報告をさせていただいている。また月ごとにご家族様にお手紙にてご様子を報告させていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所を覚えておられる方には散歩など気分転換を兼ねて外出している。また入居時に馴染みのある品も持ってきていただいている。	「気軽に訪問できる事業所作り」を心掛けており、家族の協力のもと自宅等の外出を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。例えば、今まで通っていた作業所やデイケアを継続利用したり、馴染みの美容院へ通ったりしている。職員はそれらの情報を連絡ノート等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事、レクリエーション、行事で入居者様同士の交流できるよう努めている。馴染みの関係をさらに深いものにし共に生活を楽しくして頂ける様にリビングのレイアウトを変更する等により良い関係作りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後もご家族様とコミュニケーションを取り利用時における関係性を大切にしていこう努めている。またイベントがあれば声掛けをし関係が終わらないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の思い、意向を汲み入居者様のニーズに沿った生活ができるよう努めている。困難な場合は随時ミーティングなどして職員と話し合いをしている。	利用前の聴取や利用開始時に家族に記入してもらった基本情報（「人生のモットー」「性格・習慣」～「終末期の考え方」）をミーティングで共有し、利用後の意向の把握は連絡ノート・介護計画で共有している。銭湯好きな利用者の要望に対し、月に一度、職員同行で地域のスーパー銭湯への外出支援に繋げた経緯がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や面会に来られた時など入居者様、ご家族様からお話しをお聞きし、できるだけ対応できるように努めている。契約時に生活歴、嗜好品、趣味等を家族様にご記入していただきミーティングで情報共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人一人の現状、心身状態をアセスメントで把握をしてお手伝いなどできることは行って役割を持っていたるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者様、ご家族様と話し合い、生活歴やニーズに合わせた介護計画の作成している。入居後も定期的にモニタリングを行い、意見交換を行って計画の見直しをしている。	管理者又は計画作成担当者がアセスメント及び原案を作成する。担当者会議には、その家族の8割が参加し、職員と計画を策定している。毎日のサービスの実施状況を職員がモニタリングし、管理者又は計画作成担当者が集約して、半年毎に計画を見直している。入浴好きな利用者に対し、地域のスーパー銭湯への外出に繋げた例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活日誌の記入、ミーティング、申し送りなどや連絡ノートで情報の共有を行っている。問題点、課題点あればその都度スタッフと話し合いの場を設けてより良いケアの提供に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新たな課題、ニーズに対し情報の共有・意見交換を行い、入居者様にあった対応の方法を提案、実践を行っている。DC、作業所の利用や入浴が好きな方には銭湯に行くなどして柔軟なサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事(祭り、餅つき、地域サロン等)にできるだけ参加している。運営推進会議や町内会の行事を通して入居者様と一緒に市場やスーパーに行くなど地域に密着したグループホーム作りを目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	看護師、週1回来られるの往診医と連携をとり、入居者様、ご家族様のニーズを聞き報告、連絡に努めている。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、全利用者は事業所の協力医を主治医としている。内科協力医から週1回の往診、協力歯科医から各階毎に週1回の往診がある。又、眼科・耳鼻科からも2週に1回の往診や法人内の訪問看護から週3回の訪問もあり、協力医との連携を図った適切な医療体制が組織されている。	

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者様の健康状態について常に話し合い、小さな体調の不調や変調あれば直ぐに看護師に報告し、指示を仰いでいる。個々の入居者様の症状に合わせた対応ができるよう話し合いをし、受診を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際に病院関係者との情報交換を行っている。医師や医療関係者の方々のサポートのもと、病院関係の方と関係づくりを行っている。また定期的にカンファレンスを開催して情報共有、今後の話し合いをして関係作りを築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に入居者様やご家族様に説明させていただいている。重度化、看取りに入った際は家族への説明、ニーズの聞き取りを行う。医師など医療関係者との協力のもと入居者やご家族様に希望に沿うことができるよう方針について話し合い、共有、支援を行うようにしている。ホーム内研修で看取りの研修を行い終末期のケアについて方針の共有をしている。	利用開始時に「医療的な対応等・看取りに関する指針」にて事業所としての基本的な方針を説明し、了解を得ている。重度化した際には、家族・医師・管理者等で話し合いを行い、書面による同意の下、対応指針に基づき、適切な支援を行う考えである。職員は最近1年で2例の看取りを経験し、現在1名の対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生に備え応急手当、初期対応の訓練、研修を行っている。緊急時に速やかな対応ができるよう詰所に緊急時のマニュアルを貼付、連絡体系一覧表を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年度に2回、避難訓練を行っている。初期消火、消火器の使い方を消防署員の指導のもとスタッフが共有していくよう努めている。また民生委員、他事業者も参加され地域の協力体制を少しずつ築いている。	年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施し、内1回は消防署の立会いの下、防火対策や防災対策の指導を受けている。又、事業所主催の避難訓練に民生委員や他事業者が参加したり、12月には事業所が防火統括管理者として同一建物内の他会社・建物所有者と共同で避難訓練を実施する予定で、地域連携も構築しつつある。	

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人一人の人格を尊重、声かけも自尊心を傷つけないよう配慮している。入浴、排せつについても羞恥心を考え接している。ホーム内研修で入居者様の接遇について学び実践するよう努めている。	毎年の接遇研修や普段から同じ目線・穏やかなトーンの声掛けで接する中で、人格を尊重する態度も浸透しつつある。又、利用開始時に「個人情報保護に関する方針」にて同意書を交わし、個人情報に関しては鍵付きロッカーでの保管やブログでの取り扱い、職員との雇用契約においても退職後の守秘義務等、慎重な扱いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の関わりの中で入居者様の希望を聞き、希望されていることを取り入れるように努めている。入居者様一人一人自己で動く事ができるよう働きかけている。入浴や一日の予定など本人にどのように過ごしていただくか朝にお尋ねしていくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様、ご家族様に生活歴やニーズを聞きそれに沿った生活を送って頂けるようにしている。日々の暮らしの中に入居者様の話、希望を聞きその意見を大切にしている。入居者様の起床時間、就寝時間を定めず本人様のペースでその人らしい生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人一人の好きな身だしなみを聞き、入居者様の好みの装いができるよう努めている。希望者は散髪（訪問散髪、外出も）できるようにしている。また入浴後の服も本人様に決めていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様とともに台所に立ち食事の支度を行っている。時折コミュニケーションをとりながら準備、食事、片付けをともに行い楽しく行う事ができるよう努めている。	毎日の献立は、利用者のその日の要望と食材を勘案し、職員が仲立ちをして決め、利用者は下ごしらえ等の手伝いを職員と共に行う。栄養管理についてはグループ内のフード部門の協力もある。屋上菜園で採れた野菜を活用したり、時折の夕食やおせち料理・誕生者にチラシ寿司等の行事食や干し柿作り等のおやつ作りも楽しみである。	

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量の観察を行い、少ない方は栄養バランスを考えながら好きな物などをお出しし摂取して頂けるようにしている。水分もお好みの飲み物を提供し定時の水分補給時間以外にも希望に沿った対応を行えるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>ご自分で義歯管理及び歯磨きができる方は本人様にお任せし、週1回の歯科往診で状態を確認していただいている。難しい方は介助をして状態の悪化がある場合は歯科医師に報告、相談をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>定時の声掛け、誘導やトイレに行きたい様子、動作を見逃さず、失敗なくトイレで排泄していただくようにしている。</p>	<p>出来るだけトイレで排泄してもらおう様、排泄記録表等により、各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。一部の紙オムツ・布パンツの利用者を除き、7割は紙パンツを着用しており、できるだけその状態の維持を支援している。又、利用者の状態に応じてポータブルトイレやセンサーマットを設置して自立支援を図っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分を摂って頂くことや食事のメニューもそれに対応できるよう（ヨーグルト、繊維など）工夫を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手助けで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日が入浴される方は決まっているが、入りたいという方がいれば、気持ちを汲んで入っていただいている。また失禁があれば入浴をしていただくよう努めている。</p>	<p>入浴は週に3回の午前を基本に行っているが、状況により柔軟に対応し、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度や時間に配慮している。又、利用者の体の負担を軽減するため、シャワー浴や足浴で対応したり、入浴剤で寛いでもらうこともある。ヒートショック防止の配慮や時には地域のスーパー銭湯を堪能することもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	居室内の環境（寝具、照明、室温 など）や時間など一人一人の入居 者様に合わせた休息、睡眠して頂 けるようにしている。寝つけられ ない方はお話を聞いたり無理のな いように入居者様のペースでお休 みしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。	医師、看護師との連携を行い目的 、副作用など薬の概要を把握する ようにしている。服薬介助も誤り のないよう行う。服薬の折に症状 の観察を行い特変あれば看護師、 医療関係者に連絡を行っている。 処方された薬の説明書をファイル に綴じていつでも確認できるよう にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている。	入居前のアセスメント、入居後 の入居者様のお話やご家族様の 面談で楽しみ、嗜好などを聞き、 行い楽しく過ごして頂けるよう 努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。	入居者様の希望に合わせてお出 かけできるよう努めている。また 行楽を企画しご家族様も参加し て下さっている。	日頃から利用者の希望により近 所への散歩や日用品・食材の買 い物に出かけている。又、初詣・ お花見・動物園・系列事業所の 祭り等の外出行事や町民運動会 ・地蔵尊祭り等の地域行事等、 普段は行けないような所へ外出 し、「非日常」を楽しむこともある 。更に回転寿司等のグルメツアー や家族との外出も楽しみである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	原則立替にてお金を払っている。 しかしお金を持たれないと不安を 抱かれる方は小額ではありますが 所持されている。		

自己評価	外部評価	項目(3F・4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様にとって何か気になるようなことがあった際には積極的に持参の携帯電話などで電話をかけていただいている。時には、スタッフが話し相手になることもあり。手紙やはがきを出したいと言われたときには、一緒に買いに行き書いていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	道路が近く車の音など大きい為、防音ガラスを取り入れ、台所等で大きな音を立てないように心がけている。季節に合わせた音楽や冬には雪だるまを作った触っていただき四季を感じていただいている。	リビングには、利用者が書いた習字や塗り絵の作品やクリスマス・ツリーも飾られ、季節感のある、安らぎの空間となっている。又、今年から始めた屋上菜園の野菜作りも生活を潤し、食卓を飾っている。食事中はテレビを消し、穏やかなBGMの中で食事に集中できる環境やエアコンからの直風を防ぐ風除け板等の工夫もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングではダイニングテーブルやソファなど好きな場所に座って過ごしていただいたり、居室に入り自由に過ごされる方、時には他フロアの入居者様と関わりの時間を作るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様が用意してくださるものは、今まで使っていた馴染みのあるものを持ってきていただくようお願いしている。スタッフと一緒に購入する際などは、ご本人様の好きな色や物を購入し使用していただいている。	居室には、ベッド・エアコンを設置し、他は利用者が家で生活していた物として、仏壇・鏡台等の使い慣れた物や家族の写真等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫が為されている。又、利用者によっては、夜間はベッドサイドの足元にセンサーマットを設置する等、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	「できないこと」を見つけるのではなく「できること」を多くみつけ、出来ることを増やし、その人らしさを生み出すように接しています。また担当者会議でもできることに特化して些細な事でもお手伝いをしていただき役割を担っていただいています。		

V アウトカム項目（ 3F・4F ） ← 左記（ ）内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム舟入みどりの家

作成日 平成29年12月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	年間運営方針を評価する仕組みが不明確である。	会議の評価の内容を議事録等で作成する事により可視化して評価する仕組みを構築する。	全体会議、フロア会議等で評価して議事録に記載する。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。